

生徒のために進化続ける

青木辰二さん(左)と長男の崇幸さん。昨年、社長職をバトンタッチした
＝大阪市浪速区のイング本社

関西経営者列伝

イング
青木辰二 名誉顧問

最終章



特性を見極めてやる気引き出す

子どもたちは、一人一人本
当にいろんな個性を持ってい
ます。勉強のできる子もいれ
ば、やんちゃな子もいる。そ
の中で、ほめて、やる気を引
き出すことを常に大切にして
きました。

こんなことがありました。
ある子どもに、成績優秀な子
でも間違えるような難しい問
題の解き方を教えておき、授
業中に当てる。スラスラ答え
られるから、教室中が「おー
っ」と沸くわけです。やる気
がわくと勉強以外の面でも好
影響が出てくる。あまり勉強
が得意なやんちゃな子でし
たが、みんなの自転車をきれ
いに並べ替えるように頼む
と、喜んでやってくれました。
小さなことでもいいんです
よね。特性を見極め、いいと
ころを見つけて成功体験に結
びつける。「あれしなさい、
これしなさい」と一方的に言
うのではなく、自ら考えさ
せ、行動や提案を促す。そう
いう接し方をすれば、子ども
は絶対に伸びる。これは昔も
今も変わっていないと思いま
す。

《平成14年度からのいわ
ゆる「ゆとり教育」は、学
校と学習塾の関わりを見直
すきっかけになった》

小中学校は完全週5日制に
なり、学習内容が3割も削減
されるという。「家計で給料
が3割削られたら生活できな
くなるように、子どもたちに
とって大きなマイナスにな
る。これはおかしい」と違和
感を覚えました。過度な受験
競争が指摘されていましたが、
人間は社会に出れば必ず
競争にさらされるし、避けて
通れない。保護者の方々も強
い危機感を持っていました。
イングでは学校への出張教
育サービスを拡充しました。

かつて学校が塾を敵視した時
代もありましたが、僕らにも
手助けできることがあるし、
学校のニーズを先取りしよ
うと考えた。学校科目ではない
部分でも「こんなことができ
ますよ」と私学へセールスに
回りました。高校生向けの英
語能力テスト対策講座、大学
での資格講座や基礎学力講座
…。小学校での英語授業など
も請け負いました。
われわれは先生の授業の補
完をするのではない、違う視
点からサポートできるという
提案をしたんです。個別の要
望に応えるカリキュラムを編
成することで、信頼を得て請
負先を増やしていくことがで
きました。

教育絶えず変化 ニーズを先取り

《将来を見据えたビジョ
ン、ニーズを先取りする視
点は、社内にも向けられて
きた》

イングは平成25年、学研塾
ホールディングスと業務資本
提携をし、学研側がイングの
株式の70%を持つことになり
ました。先方は日本の教育
機関を目指す中で、人材とノ
ウハウがある地域学習塾との
提携を進めていた。僕は、イ



家族で北海道へスキー旅行に出掛けた際に記念撮影。
左端が青木さん、右から2人目が崇幸さん＝平成6年

次回はタマノイ酢の播野勤社長
12月2日に掲載

ングの独力だけで教育サービ
スを広げていくのはいずれ限
界がくると感じていて、互い
の方向性が合致したんです。
学研側はイングの独自性、独
立性を重んじてくれ、事業そ
のものはわれわれに任せてく
れました。
社員には戸惑いもあったよ
うですが、目先ではなく将来
を見通せば必ずウィン・ウイ
ンの関係になる、やりがい
が広がることにつながるとう
確信があった。社員にとっ
ても一番いい選択だったと思っ
ています。
昨年、長男(崇幸氏)に社
長職をバトンタッチし、経営
の一端から退きました。教育
は絶えず変化するし、若い世
代に任せたい方がいいと判断し
た。今年から始めた新自立型
個別指導塾の展開は新社長の
元で発案されたものだし、や
はり若い人は今のニーズをく
み取る力が強いと感じてい
ます。
われわれは、トップ校に何
人進学させるかよりも、生徒
の学力をいかに伸ばすかを最
も重視しています。学習塾と
しては弱みになるかもしれな
いけど、一人一人をちゃんと
見ていきたいという思いが強
い。いつまでも生徒のため、社
員のために進化を続ける。現
在進行形の「イング」であり続
けてほしいと願っています。

文・内田透/写真・門井聡